



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

奉仕と友情



人類に
奉仕する
ロータリー

2016-2017 RI会長メッセージ

第1251回例会 2017年4月19日 No.1221号

会長時間



会長 賀谷 俊幸

皆さんこんにちは！ 本日、京都南ロータリークラブ吉谷正紀様、日域大陸様、山木靖雄様、広島陵北ロータリークラブ例会に参加いただき誠にありがとうございます。ごゆっくりお楽しみください。

さて本日の会長時間では先ほど皆さんと一緒に唱和した「ロータリアンの行動規範」について話をしてみたいと思います。ロータリークラブは会員が自らの職業を正しく行っており、そして業界全体の倫理的な水準も向上させ地域社会との共生発展を成し遂げて、職業を通じての社会奉仕活動である「職業奉仕」を行うとしています。これは他の奉仕団体にはない特徴です。これに反し、近くでは上場T社は数年間に渡り粉飾決算を行い社会、社員に多大な問題を与えていることは経営者として失格であり世の中から退場を求められています。この事で「ロータリアンの行動規範」の重大さが明らかになりました。

この「ロータリーの行動規範」は1915年サンフランシスコ国際大会で「道徳律11条」採択された後、1989年「職業宣言」、2011年「行動規範」となり2014年1月、10月にこの「行動規範」が再改定となり現在の「ロータリアンの行動規範、4項目」となりました。この4項目は先に皆さんと唱和した内容です。長い歴史の中でじっくり練り上げられ世の中に広く認知される教訓ですので皆さんの組織でも実践できるようお勧めできるものと考えています。以上会長時間を終わります。

今回の例会(4月26日)

来賓卓話
呉地方総監 海将
池 太郎 様

次回の例会(5月10日)

会員卓話
南條 泰 会員、若林 孝光 会員

出席報告 (例会運営委員会)

4月19日(水)出席者
会員総数 51名
出席会員 36名
欠席会員 15名
ご来賓 0名
ご来客 3名
ゲスト 0名

来客者紹介 (親睦家族委員会)

4月19日(水)出席者
京都南RC 1名
広島東南RC 1名
広島西RC 1名

幹事報告(山田和弘)

- 休会
 - ・5月1日(月) 広島東南RC、広島中央RC、広島廿日市RC
 - ・5月2日(火) 広島RC、広島西南RC、広島安芸RC
- 例会変更
 - ・広島廿日市RC「創立22周年記念夜間例会」
【とき】5月8日(月) 18:30～【※同日変更】
【ところ】ANAクラウンプラザホテル広島
- お知らせ
 - ・「会員名簿記載事項の確認」をボックス配布しておりますので、確認されましたら、お帰りの際受付に提出して下さい。5月9日(火)までに提出下さいようお願いいたします。
 - ・4月23日(日)開催の地区指導者研修会へ出席される方にプログラムを配布しております。13時から広島国際会議場となりますので、お間違えのないようご注意下さい。
 - ・4月29日(土・祝)開催の広島14RC合同懇親ゴルフ大会の組合せ表を、ご参加の方へ4月17日(月)にメールをお送りしておりますので、ご確認下さい。

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】賀谷 俊幸 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F 【TEL】082-221-4894
【幹事】山田 和弘 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/ 【FAX】082-221-4870

来 賓 卓 話

野球解説者
池谷 公二郎 様

紹介いただきました池谷です。だいぶ時間がありますので、30分頑張ろうと思いましたが時間を越えて頑張りたいと思います。

昨年優勝しました。25年ぶり、私が初優勝のとき、18勝して優勝に参加できました。そのときの優勝が、あまりにも印象的だった。あのときも東京の後楽園球場で優勝しました。両国にパールホテルというホテルがあって、そこでビールかけをしたのですが、ビールかけをしても、今広島は大変だと、流川で、かどかどで胴上げして、酒はタダだし、すごいことになっていると聞きました。まさか、次に優勝しても、あのときのような感動はもう得られないだろうと思いましたが、昨年の優勝はそれを超えたすごい感じでしたね。私は優勝したらテレビ局の特番があるということで、家で待機していました。優勝が決まって、局へ出ていったんですが、局の前に人がたくさんいる。タクシーを降りたら、いきなり私の前に列をつくって、ハイタッチをするんです、みんな。なんでハイタッチをみんな、するんだと思ったら、本通りでそれをやっていたんですね。本通りですれ違う方が、ハイタッチをして、その流れが局の前へきて、僕もハイタッチしなきゃいけない。



昭和50年の優勝のときの印象、帰ってきてタクシーに乗れば、ご苦労さんといってタダ、喫茶店へコーヒを飲みにいくと、よくやったねといってタダ、さすがに流川へ飲みにいってタダにはなりませんでしたが、それだけすごい感動がありました。25年ぶりに優勝するということは、スタッフも何も、みな忘れているんです。たぶん、カープのスタッフも優勝を経験しているオーナーも25年前の優勝のときには、アメリカかどこかへいらっしやって、関わっていないと思います。

まして困ったのがテレビ局です。スタッフのなかに優勝経験したのがないので、優勝特番をつくるのに、どうしていいかわからない。ご褒美に優勝旅行もあります。優勝旅行も行ったことがないので、テレビ局のなかに、行きたいのばかりなんです。それはみんな、行きたいですよ。自分が行けるだろうと思ってみな待っているのですが、行けるのはカメラマンを含めて5人ぐらいのもので、アナウンサーは1人しかいけない。25年ぶりの優勝は、いろんなところで、いろんなことが起きました。

なぜカープが去年、優勝できたかといいますと、一番は選手が揃ってきたんですね。ドラフトで、いい選手が取れるようになってきたんです。今まではドラフト、いい選手がいても、競合せず、こっちは安いから取れるだろう、こっちは誰も指名しないだろうという選手ばかり連れてきていたので、戦力になっていないんですね。大瀬良ぐらいから、競争をしてもいいから、負けてもいいから取りにいこうと、なぜ急にそうなったかわかりませんが、そういう選手を取りにいって。これは一つにカープ球団に間違いなくお金ができたということですね。球場が新しくなって、ファンの方がたくさん見に来てくれる。グッズが飛ぶように売れる、グッズも安くないですよ。こういうことをいうので、私駄目なんですよ、カープ球団に対して。飛ぶように売れているんです。昨年、東京からファンをバスで呼ぶとか、新幹線で呼んで、いろんな方法で球場を満員にしようとしています。

そこへもってきて、マエケンに移籍金が入りました。あの移籍金が入ったおかげで、黒田は昨年の年俸が6億です。私は12年にしても6億なんかもらっていません。1年で6億です。そういうお金が球団に入ったのが、まず大きいと思います。球場が新しくできてお客さんがたくさん来るというのも、これは大きかったと思います。

もっと大きいのが、マエケンがいなくなった。マエケンがいなくなったら、どうなるんだろうと心配したでしょうが、マエケンがいなくなった効果が大いにありました。なぜかといいますと、マエケンは確かに成績は残してくれましたが、もうメジャーに行きたいばかりです。球団も何年かしたらメジャーにいいという約束をとりつけていますから、投げ込みをしないんです、キャンプで。肩を消耗したくない。練習で走り込みをしない、そういう選手ですから、それがエースですから、若い選手がみんな、右習えするんです。キャンプへいっても、みんな、走り込み、投げ込みをしない。

来 賓 卓 話

さすがにコーチも、ほかの若い選手が、投げ込み、走り込みをしないので、困って、マエケンに、投げ込みをしようよという、そのコーチいわく、故障したら責任持ってくれるんですかと言われたそうです。走り込みをしようよという、故障したらどうするんですかと、マエケンがいいとか悪いというより、マエケンの性格です。天才肌ですから、練習しなくても、あれだけ勝てるんです。

でもそのマエケンがいなくなって、代わりにしてくれたのが黒田です。黒田の力、みんなに与えた影響がすごかった。黒田は反対に、ピッチャーはマウンドに上がったら完投しなければ駄目だと、練習でもそうです、キャンプへいったら投げ込みをして、一年のスタミナをつくらなければ駄目だと、そういうタイプのピッチャーなんです。確かに大学とかいくと、昔は何人もピッチャーがいまませんでしたから、そういう教えを受けたんだと思います。そういう黒田が来て、キャンプで投げ込み、走り込みをするもんですから、ほかの選手が、おやと思ったはずですよ。あれ？ 前田さんは正しかったんじゃないと、正しいわけではないんです。メジャーへ行きたいばかりですから、お金が欲しいばかりですから。声を小さくしました。黒田が来て練習してくれる、よし、黒田さんのように練習しなきゃ駄目なんだと、若い選手が、わかってくれた。これが大きいと思います。

もう1人は新井が帰ってきたこと。新井は、なぜ阪神へいったかを話すと、私はまちを歩けなくなるので、それは伏せておきますが、ある事情があって、阪神へ一回飛び出した。あいつの性格、新井の性格で、阪神の、カーブのやじもきれいではないですが、よくやじられますが、あの甲子園球場の大きなところで、成績が悪いとやじられる。あれに、新井が耐えられるわけがないです。どちらかという人がいいほうですから、調子が悪いと、なかなかゲームにも使ってもらえない。まだ現役は続けたいのに、帰ってこいとオーナーが声をかけた。オーナーも偉いと思います。帰ってきたら、あの活躍ですから、新井はもうカーブという球団に恩気を感じてうれしくてしょうがない。

キャンプで、よう練習しますし、人一倍、バットを振る。これも、ほかの選手が気が付くんですね。丸、菊池が、あれ？ 新井さん、こんなにバット振る、こんなに早くからグラウンドへ行行って練習する。これに若い選手が気が付いたので、若い選手が練習をさせた。これは自分の練習をさせたということです。ですから、それが昨年の優勝に結びつきました。黒田と新井の復帰と、マエケンがメジャーにいったくれた、これがうまくかみあったのが、本当にカーブが優勝した、大きな原因じゃないかと思います。

カーブには、若い選手が多い。ピッチャーでも今年、若いのがいっぱい出てきましたね。岡田、九里、今年入った加藤、床田、出てきました。ドラフト1位の加藤というピッチャーがいます。私は買っていたんです。これはいいぞと。あわや、ノーヒットノーランをしそうになりましたが、ああいうピッチャーは、緒方監督のように野手出身には好かれない。なぜかという、ボールが多い。ボールが多いのは、守っていて、野手が嫌になるそうです。しっかり投げろと、守る時間を短くしろと、ですから野手出身の監督でしたから、最初1軍に入れていなかったんですね。ジョンソンの故障によって、ローテーションに穴が空いたので、そこを埋めるために加藤を呼んだら、あのピッチングです。加藤は慶応大学を出ていますが、本人は東大を目指したぐらいですから、ここはいいはずですよ。カーブのなかでも一番いいはずですね。東大を目指したのはほかにはいないでしょうから。

その頭の良さを、あとはマウンドで生かすことと、もう一つは黒田を呼んできた苑田スカウトがいらっしゃるんですが、この加藤も苑田スカウトが担当だった。苑田スカウトがどこが気に入ったか、加藤の、インタビューを見てもぶっきらぼうなんですね。もうちょっと真面目なこと答えろみたいな態度でインタビューするんですが、彼のマウンド上での度胸の良さ、気持ちの強さを買って、ドラフト1位で指名したそうです。その気持ちの強さがマウンドで出れば新人王候補に挙がっていくと思います。

ピッチャーのなかで一番今年、気がかりなのが中崎。なぜかといいますが、単なるデブになってきた。見ればわかると思いますが、ほっぺが膨らんできたし、もともと下半身が細いんです。この下半身が細いのに、このあいだタクシーに乗りましたら、タクシーの運転手さんがいうんですが、池谷さん、中崎さんに言ってくださいというんです。ゲームのあと、いつもケーキを買いに寄ららしいんです。

来 賓 卓 話

球場の真ん前にあるんです、1軒あるんです。あそこに必ず寄ってくれと言うんです。あそこでケーキを買って帰るんだそうです。うれしそうな顔をして買って帰ると運転手さんが言っていました。あれじゃ駄目だと思うんですが、言ってくださいと、太る原因はそうなんだと思いました。案の定、太りすぎて、ちょっと太りすぎですよ。故障しました。中崎が今故障しているあいだに、どれだけ体を絞って復帰してくれるか、これが今年のカープの優勝に大きく関わってくるんじゃないかと思います。

もう一つ優勝に関して気になることがあるんです。今、12勝3敗ですか、打率も1位、防御率も1位、盗塁の数も1位、ホームランも1位、申し分ないんですが、よく打つし、毎年ここ2〜3年気になるんですが、8番バッターに入る石原のバッティング、打てよという感じ。チャンスによく回ってくるんですが、アウトコースの変化球で、全部三振です。彼が8番に入っていて、2割5分打率を残せば、カープ打線はすごい打線になります。ましてや石原はリードがいい、すごいキャッチャーだと言われているなら、バッターボックスに入ったとき、読みを使えというんです。それができれば、あれだけ試合数出ているわけです。場数を踏んでいるのですから、2割5分のバッティングはできると思います。いつも身長ぐらいなんです、180ぐらい。石原のバッティングが向上してくれば、もっともっとすごい打線になる。今心配なのは、中崎と石原のリードではなくて、バッティングです。この2つがよくなってくれば、カープはもっともっと強くなる。

カープの良さはどこにあるかという、若い選手が多いのは確かにいいことですが、彼らがみんな、いい意味で、ライバル意識を持ってポジションを争っています。田中、菊池、丸、同じ年ですね。同じ年で123番を打って、打率が気にならないわけがない。もっというと、こいつ、どのくらいもらっているんだろうと給料まで気になるはず。ただ、今の選手は、全部銀行振込ですから、いくらもらっているかわからない。それが残念です。私たちのときは、全部現金だった。今、カープでそれをやったら大変になるかもしれません。たくさんもらっているのがある。若いのがライバル心を持って競い合っていることが大事なんです。

選手というのは、ライバルをすごく意識します。私がカープに入ったとき、今日は昔の話が非常に話しやすい。皆さんの年齢的なものを見ると。ピッチャーで佐伯というピッチャーがいました。広陵高校から入った。金城というピッチャーがいました。これは大阪から来たピッチャーです。永本というピッチャーがいました。盈進高校の、それと私4人が同じ年だった。3人は高校出で入って、それぞれ活躍していましたから、いい給料をもらっていたんです。私はノンプロに3年いましたから、同期より遅れて入った。入ったときの年俸が、昭和49年、180万だった。誰も驚かないと思います。それまでノンプロ、社会人野球、ヤマハにいたんです。昔は日本楽器でした。ヤマハのときに辞めるときの給料が基本給4万2000円だった。4万2000円が、年俸180万、15万円になったんです。使いたい放題、使っていました。ほとんど流川へ消えていました。

そんな生活を送っているときに、同期の佐伯が市民球場の試合が雨で中止になった。そうすると、あのころは練習場がなかったの、三篠の合宿で練習するんです。そこに行って練習して、練習が終わると、給料日ですから、毎月25日が給料日でしたから、マネージャーが選手の給料を持ってくる。こんな箱に入れて帰ってくるんです。私は自分の練習が終わって、自分の給料をもらって、独身でしたから、合宿で自分の部屋にいて、給料袋を破いて、明細と現金が合っているかどうか調べる。15万といってもいろいろ引かれたら、10万あるかないかですから、勘定するのもたいした時間はかかりません。

財布に入れてくつろいでいたら、コンコンと部屋をノックして、ライバル佐伯が入ってきた。佐伯はカープの外木場に次ぐエース級でしたから、私の部屋に入ってきて、私がくつろいでいる後ろにどかんと腰を下ろして、給料袋を破いて、中から現金を出して、1、2、3、4と、声を上げて勘定でした。この野郎と思いました。思いましたが、現実にはたくさんもらっているんです。80万以上だったと思いますが、それを勘定して帰っていきませんが、私はいるあいだ、腹が立ってしょうがない。おまえがたくさんもらっているのはわかっているから、お嫁さんもいるわけですから、家があるわけですから、家で帰ってしろという、黙って聞いておけと言うんです。野球選手というのは、おれみたいに、若くても活躍すれば、これだけもらえるというんです。そうやって帰っていききました。

来 賓 卓 話

ライバル意識が、よけい強くなったんです。この野郎と思った。あいつがあれだけもらっているなら、よし、おれも頑張っているか、あいつを抜いてやろうと思ったんです。そういうライバルがいるのは、本当にいいことだと。

もう一つもっとショックだったのは、今でこそカープ球団は金があるんで、遠征するのに、全部新幹線はグリーン車に乗せてくれると思う。私たちが入ったときには、お金がなかったんです。1軍のレギュラーだけがグリーン車。その他もろもろは指定席です。新幹線に乗ろうと思って駅で待っていると、佐伯が乗るところが違うんです。当然です。向こうはグリーン車です。私は普通の指定です。これも、腹が立つんです。佐伯が私より1つ上、1つでも上の佐伯さんなら、先輩はいいなとなるでしょうが、同級生がグリーン車に乗って、ふんぞり返って移動しているのに、指定席の狭苦しいところで、3人並んで座っているのが、我慢できなかったんです。よし、こいつをいつか抜いてやろうというライバル心が、この2つに関して、すごくあったんです。今の若い選手、カープの若い選手も、そういうライバル心があるということ自体が、ライバルがいること自体が素晴らしいことだと思いますから、いい意味で、お金で競い合わなくてもいいんですが、競い合ってくれば、ますます選手が力がついて、いい選手になっていくんじゃないかと。

その若い選手をうまく操る、優勝に導いた緒方監督も、一年目になったときには、私の記憶では、ぼろくそに言われていましたよね。黒田が来て優勝もできなかった。Aクラスにも入れなかった。でも緒方監督の采配も変わってきました。緒方監督の前が野村謙二郎監督は今、私と一緒に広島テレビで解説しているの、悪く言いたくないですが、これもボロボロに言われていました。よくスタメンを変える、これじゃ勝てない。前の日にホームランを打ったのに、次の日にはスタメンのメンバーにいないということでしたが、野村謙二郎が監督をやる前は、野村謙二郎の場合はブラウンが監督でした。ブラウンが監督をやること自体、おかしいですけどね。カープは赤ですから、ブラウンが監督したら駄目に決まっている。人選のミスです。

そのあとを受け継いだんですが、ブラウンが全部、メジャー流、アメリカ流で野球をやっていた。ピッチャーは投げるなど、投げたら駄目だという野球なんです。それで若いピッチャーが育つわけがない。それを見ていたもんですから、野村謙二郎が、しっかり練習させなきゃいけないということで、しっかり練習させた。このギャップ、この差がいけなかった。何もかも、自分1人で頑張って、ああしよう、こうしようと思えようと思ったので、うまくいかなかった。一緒に解説しているとき、ブラウンのことをいうと、あれだけしょっちゅうスタメンを変えちゃ駄目だと言っていた男が監督になったら、ころころスタメンを変えるわけですから、なかに入ると、それだけ人材がいなかったんだと思うし、若い選手を育てなければいけないと思ったんでしょう。

緒方監督も1年目は、おい、これじゃ一緒じゃないかと、野村謙二郎監督と、スタメンをしょっちゅう変えて、これじゃ駄目だよと思っていたら、昨年、度胸を決めたといいますか、1番2番3番を固定した。それから鈴木誠也を我慢して使いたした。固定したことによって、打線につながりが出てきました。球場に行くと、いいと違います。このごろ緒方監督、貫禄がある。私たちがあいさつに行かないと、あいさつしてくれない状態で、取り巻きが多いということですが、違いますよ、優勝すると。それを、采配が自信があるので、今年もそのとおりの采配で、あとはサードと4番です。これをうまく変えて1年を乗り切ろうとした。

監督というのは、基本的に私が見ていて、山本なんとか、いろいろ監督経験者を見ますと、星野仙一さんとか、よその球団の人は言っているんですが、まあ、わがママが多い。一度頂点というか、あそこまでいくと、そうなるんですが、監督にもいろいろタイプがあるんで、カープと話がそれますが、監督の話をしたいと思います。

ジャイアンツにいたときに、長嶋さんが監督だった。長嶋さんはいろんなエピソードをお持ちなので、皆さんも聞いたことがあると思いますが、それを自分で見ると、これまたびっくりするんです。長嶋さんという方は、夏場のスイカが大変好きな方で、東京ドームで試合すると、ベンチがあつて、そのすぐ裏にスイングのルームがあるんです。代打がスイングしている。その裏に選手食堂がある。練習が終わる、そこで食事をする。長嶋さんが夏場になってスイカが好きなのですから、練習からまず帰ってきたら、そこで手を洗う、そこにスイカが置いてある、三角に、きれいなスイカが、選手もコーチも食べられる。

来 賓 卓 話

そのスイカを見つけると、そのスイカのところにいて、三角に切つてある、種のない、一番おいしそうなところをつまんで折るんです。それを口に入れる。残りはどうするかというと、そのまま次の山を折る。それを口に入れる。それを4~5個食べて、ずっと監督室へ消える。当然、残ったものは、ほかの選手が食べませんから、長嶋さんには監督付の広報とマネージャーがいますから、その2人が一生懸命始末する。

もう一つは、長嶋さんはあんパンが好きなんです。あんパンが好きなんです、これまた困ったことに、今ごろのパンは皆さんもご存じのように、全部、ビニール袋へ入っています。あれだけあんパンが好きで、毎日食べていけば、外から見ただけでわかると思うんですが、そのビニール袋を破く、なかのパンを半分折る、違つと、そこへ置くんです。あんパンが見つかるまで、あんパンを探すんです。あんパンを食べて、監督室へ帰っていくんですが、始末するのはマネージャーと広報が一生懸命、2つに折つたパンを食べる。そういう方なんです、長嶋さんの雰囲気、あの明るさと、戦術的なものがあるかもしれませんが、ジャイアンツの選手、OBはよし、ミスターをみんなで男にしようという雰囲気になるので、ジャイアンツが強くなるんです。人柄で、人を引きつける、これも一つの方法だと思います。

怖い監督のイメージといえば、星野仙一さんがいます。確かにあの人は、殴る蹴るが好きで、よく殴つて、この辺が痛いと言っていました、会うと。自分でそういうことがわかっている。かっとなると手と足が出るのが、先に出てしょうがないのがわかっている、怒るんですが、その怒つた選手が何試合か続けて活躍すると、監督室へ来いと呼ぶらしいです。おまえ、何が欲しいと、何気なく聞くそうです。なんでもいいから言ってみると、選手が今スーツがないんですけどという、どここのデパートへ行って、おれの名前でつくっておけと、時計が欲しいという、次の日に、ほいと、手を上げたら高級時計が手の平にのっている。自分の性格がわかっている、そういうことでうまくフォローして、選手を一つにする、自分の向かせる、これも一つの方法だと思います。

中日ドラゴンズが広島へ遠征してくる。3試合しますよね。そのあいだに、お好み焼き屋さん、スタンド、監督の行きつけの、指定の店があるそうです。そこについてごちそうさんと帰れば、最終日に監督のマネージャーが全部、払いにくるそうです。私にはそんなこと、してくれたことはありませんが、私もあったのですが、何もしてくれません。そういうことでうまくフォローするのも、一つの方法だと思いますね。

山本浩二さんは、基本的にすごく優しい方なんで、選手を自分から怒ることは、なかなかできない。ただ、最初に監督になったときは、山本浩二監督、その下に大下さんというヘッドコーチがいた。この方が嫌われ者になってくれた。なんでこういふとき、皆さん、うなづくんでしょ。よくご存じなんです。それがよかった。実際問題、山本浩二さんが監督して優勝しました。浩二さんが4番バッターです。センター、外野手です。たぶん古葉さんのときもそうですが、サインで動くことは、ほとんどなかったと思います。4番バッターですから、バントのサインもなかったでしょうし、ヒットエンドランも、ほとんどなかったでしょうし、センターですから、飛んできたボールを、ただ取っていればいい。采配に関する勉強はほとんどしていなかったと思う。

それをやはり、セカンドで大下さんという方が、試合運びのなかで、ここはエンドラン、バンドということをして話合つて、試合を進めていったので、優勝できたと思います。山本浩二さんが監督になったときには1年目が2位、2年目が2位、3年目が優勝でした。そういうふうな、自分の性格がわかっている、選手を怒ることができないなら、ヘッドコーチとして、そういう方をうまく使うのも、監督としての、うまい使い方ではないかと。

私が最初にプロ野球に入ったときの監督でお世話になったのは古葉さんです。古葉さんが監督になって昭和50年に優勝するんですが、最初の昭和50年の監督はルーツですね。ルーツが、あの帽子を赤くしたんです。最初に帽子を赤くしたとき、今でこそ赤ヘルとか言われますが、その下はほとんど紺系なんです。帽子だけが赤くなった。アンバランスで恥ずかしいこと、このうえなかったんですが、それでスタートしたんですが、ルーツがやりだしたことは、まず、弱いチーム、47、48、49年と、カープは3年連続ダントツ最下位です。5月5日まで頑張る、5月5日を過ぎると指定席に向かって一直線でゴール、暗い道のりをたどっていたんです。

来 賓 卓 話

それを換えようとして、ルーツがやったことは、まずミーティングです。弱いチームを強くするために、まずいろんな話を聞かせる。聞かせるのはいいですが、ルーツが1時間しゃべれば、通訳が1時間しゃべるわけです。これが長いんです。当然ですが。選手が飽きてきたのがわかるもんですから、ルーツが考えたのが毎週土曜日には、選手が全員、背広ネクタイ着用で、ホテルでフルコースを食べる。だいたいキャンプ中の食事は、ジャージとか、ジーンズで、鍋をつついたり、焼き肉をしたりですが、全員が背広ネクタイ着用でフルコースを食べるわけです。なぜそうしたかという、最初の料理が出てくる、2番目の料理が出てくるまで時間があります。そこでしゃべりだすんです。作戦を考えたんです。食事が長いんです。いろんなことで、ルーツはまず、強い野球、強いカーブになるためには、こうしようということを、しょっちゅうミーティングで言っていました。

ルーツが言ったなかで一番印象に残っているのは、カーブが弱かったですから、可能性があれば失敗を恐れず挑戦せよという言葉をしよっちゅう口にして、選手にそれを目指せと言っていました。そのルーツも、采配を振っているなかで、球団と衝突して、これも僕のライバル、佐伯が甲子園でスリーボールツーストライクから投げた、ストライクのボールの判定をめぐって、もめて帰りました。

そのあとになったのが古葉さんです。古葉さんが監督になったときには、青年監督で、若かったんです。ですから、監督になったときには、古葉ちゃんスマイルがすてきだとか、低音の魅力が素敵だとか、女性に人気があった。女性に人気があったんですが、古葉さんも選手には、口べたなものですから、怒るんですが、なかなか出てこない。自分で腹が立って、手と足が出てくる。どっちかが出てくる。

私は古葉さんが監督になったときはローテーションピッチャーになっていました。マウンドで投げていると、ツーストライクをぼんぼんととる。三振をピッチャーはとりたくなる。三球勝負にいくと、打たれる。古葉さんが、ベンチで怒っているのがわかるんです。バットケースでかくれんぼしながら。古葉さんの野球は、野村克也さん、南海ホークスの、みんな、あまり好きな人はいないと思いますが、古狸みたいな方の野球が古葉さんの野球ですから、メインですから。野村さんの野球ですから、ピッチャーはツーストライクをとったら、あとはボールが3つ投げられる。そのボール球をうまく使って押さえないという野球です。私はここを使うほうではなかったので勝負にいくと、打たれる。ベンチで古葉さんが怒っているのがわかるんです。

古葉さんの野球は、色紙に和と書きますが、チームワークなんです。和を乱すなど、派手なことをしてくれなくていいから、地味なことでコツコツ、それぞれが地味なことを、自分の仕事できちんとこなしてくれ、それで勝っていった、初めてチームが強くなるというんですね。私がツーストライクから打たれてノーアウトでランナーを出すことは、ブルペンで2番手のピッチャー、3番手のピッチャーが、つくりださなければいけない。それだけでも迷惑をかけている。帰ってきて、なんとか押さえて帰ってきて、当然怒られるのはわかっていますが、古葉さんは、バットケースのところ、ピッチャーは、一番こっちの水飲み場ですから、わざわざ近くに行かなければ、テレビに映ると困るので、古葉さんも、殴りにこないんですが、これが困ったことに、ピッチャーは汗をかくので、アンダーシャツを着替える。そのアンダーシャツを着替えるのに、古葉さんのところを通らないと、ロッカーに行けない。古葉さんが、誰かにアドバイスしている隙に、ずっとロッカーに行き着替えていると、蹴りが入って、同じミスをするなど、三振をとりたいたいのわかるけど、チームとして勝っていくためには、それぞれが自分の仕事をきちんとしていこうじゃないかという野球でした。

そういう野球をしていったら、5月過ぎても首位、6月過ぎても首位、7月過ぎても首位にいる。そうすると、今度は負けているチームと違って、プレッシャーがすごくなってくる。最後は中日と1ゲーム、2ゲームで優勝を争っていましたが、自分が明日先発だと、ナイターなんです。ナイターなのに、時間はいっぱいあるのに、寝られないんです。なぜ寝られないかという、試合のことを考えるんですが、その考えるのも、相手チームの悪いところが出てこないんです。いいところしか、頭に浮かんでこない。あのころは中日と争っていましたが、高木守道さん、インコースは長打がある、アウトコースも、うまくライト前に打つ。2番の谷木さんはセーフティバントがうまくてランナーを進めるのがうまいとか、相手のいいところしか出てこなくて、なかなか寝られないんです。

来 賓 卓 話

悶々として、朝になるんですが、いつまでも寝ているわけにいかない、球場に行く準備をするんです。気持ちは晴れないんです。なかなかプレッシャーが取れないんですね。

試合が近づいてきて、試合のために投球練習をしている。まだ気持ちが晴れない。いざ、試合が始まる時、ベンチから、グラウンドへ向かっていきます。そのときにファウルラインの線をまたぐとき、初めて、よし、こんだけいろいろ考えたんだから、しょうがないと、もう開き直っていこうということで、プレッシャーが飛んでいって、はねのけられるんですね。プレッシャーは確かにいろんな場面であるかもしれませんが、それをその都度、逃げてみると、また同じ場面で、同じプレッシャーがきますから、それとまた戦わなければいけない。何か大きなことがあったときに、それを受け止めて、自分で処理していけば、次のときには、プレッシャーが軽くて済むのではないかと思います。

最後になりますが、私はカーブに入って12年間、現役をさせていただきました。1年目が最下位、2年目が初優勝、山本浩二さん、衣笠さんという素晴らしい選手とも野球ができました。佐伯という素晴らしいライバルにも恵まれました。おかげさまで、この年まで広島で野球の仕事に関わることが出来ます。野球の解説者も、テレビ局と一年契約、野球選手と一緒にです。ということは、私が出ている番組の視聴率がよくないと、来年の契約をしてくれない。池谷が出ていると、いいなと、評判がいいと来年も契約してもらえる。子どもが3人いましたが、手は離れましたが、皆さんもおわかりのように、今ごろは孫にお金がかかる。私が出ているときは、今は野球解説とテレビ派、スポーツ元気丸、出ていますので、私が出ているときに、食い入るように見てくれとは言いませんから、チャンネルを動かさずに、最後までおつきあい願えると、私も広島でまだ生活できるんじゃないかと思えます。最後に余分なことを言いましたが、よろしくお願ひします。最後までおつきあいで、ありがとうございました。

地区研修・協議会の報告

4月23日に開催されました2017-2018年度地区研修・協議会へ古谷次年度会長を始め10名の会員が出席致しました。



.....SMILE BOX

京都南RC 吉谷正紀 様
本日はお世話になります。

賀谷俊幸 会員、山田和弘 会員、鈴木大次郎 会員
池谷様、本日は卓話をお願いし、誠にありがとうございました。

大場常幸 会員、伊藤弘幸 会員
池谷様、球界の裏話もよろしくお願ひします。

愛谷俊治 会員、石田愼夫 会員、瀬川長良 会員、川端ひとみ 会員、野球同好会有志一同

池谷様、本日の卓話ありがとうございます。広島陵北ロータリークラブ野球同好会に入会して下さい。お願ひします。

| | | | |
|------------|----------------|-----------|-----------------|
| 当日計 | 16,000円 | 累計 | 828,536円 |
|------------|----------------|-----------|-----------------|